

蒲田駅周辺における基盤整備方針の策定について

1 目的

蒲田駅周辺地区においては、現在、区内外を取り巻く社会情勢等の変化により問題が顕在化してきている駅ビル・東西自由通路や駅前広場など、JR・東急蒲田駅周辺の基盤施設を一体的に捉えたまちの機能更新が求められている。

そこで、蒲田駅周辺地区グランドデザインにおいて掲げる、まちの将来像「にぎわいあふれる多文化都市、誰もが安心して気持ちよく過ごせる人にやさしい蒲田」の実現に向けて、JR・東急蒲田駅周辺の基盤施設を対象に中長期的な整備方針の検討を行う。

2 検討組織の発足について

(1) 組織名称 蒲田駅周辺地区基盤整備研究会

(2) 趣 旨

学識経験者や鉄道事業者など、様々な関係者が連携して、実現性のある中長期的な基盤整備方針を検討することを目的として、本検討組織を発足する。

(3) 委員構成案 ○ 学識経験者（①岸井 隆幸：日本大学 理工学部 特任教授）
 （②中井 検裕：東京工業大学 環境・社会理工学院 教授）
 ○ 鉄道事業者（JR・東急） ○ オブザーバー（UR 都市機構）
 ○ 行政（国土交通省・東京都） ○ 大田区 ほか

(4) 会の概要

【位置づけ】「蒲田駅周辺地区グランドデザイン専門部会」の下部組織

【開催回数】4回／年（予定）

3 基盤整備方針における該当エリア及び主な検討事項

- 東西自由通路の整備
- 駅前広場（東口・西口）の整備
- 駅舎・駅ビルの機能更新
- 新空港線整備との整合
- 駅前再開発との整合
 - 交通結節点機能の向上
 - 歩行者優先のまちづくり
 - 駅周辺とまちとの一体性の向上 など



【蒲田駅周辺地区基盤整備方針 該当エリア】

※ 該当エリアについては、変更になる可能性がある。

4 その他

「蒲田駅周辺地区グランドデザイン（平成22(2010)年）」は策定後、約10年が経過する中で、区内外を取り巻く社会情勢と当該地区におけるまちづくり動向の変化に対応していくため、現在、改定に向けた検討を進めている。

本基盤整備方針の策定にあたっては、蒲田GDとの連携・整合性を図りながら検討を進め、検討した結果を蒲田改定GDへ反映させる。

第1回

蒲田駅周辺地区基盤整備研究会

2020.7.2

目次

1. 研究会の趣旨
2. 今年度の検討内容とスケジュール
3. 駅周辺をとりまく現況
4. 駅周辺の将来像

1. 研究会の趣旨

(1) 検討の経緯

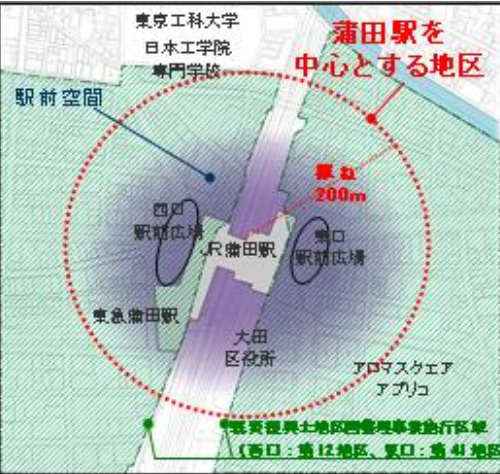
大田区では、平成21年度に策定した「蒲田駅周辺地区グランドデザイン」の重点課題としている「蒲田駅を中心とする地区整備」を実現するため、各関係者との協議を重ね、平成25年12月に「蒲田駅周辺再編プロジェクト」を策定しました。平成28年2月には、再編プロジェクトの初動期整備に位置付けられた蒲田駅東口駅前広場（大田区画街路第7号線）および地下自転車駐車場（大田第9号蒲田駅東口地下自転車駐車場）の都市計画変更が行われ、同年4月に事業認可を取得しました。西口駅前広場についても、駅前広場の改修が行われました。

その後、まちづくりに影響を与える社会情勢の変化等を踏まえ、平成29年におおた都市づくりビジョンが作成され、東京都の上位計画の見直しが行われていることを踏まえ、令和元年度より、蒲田駅周辺のまちづくりの上位計画である大田区都市計画マスタープランの改定、蒲田駅周辺地区グランドデザインの改定が着手されました。以上を踏まえ、上位計画で示す蒲田駅を中心とする地区の都市空間の実現のための、公共施設の再編、駅や駅周辺の再開発を一体的に行うための方針として、蒲田駅周辺地区基盤整備方針を作成します。

- 平成21年度
蒲田駅周辺地区のまちづくりの将来像を描いた「**蒲田駅周辺地区グランドデザイン**」を策定。
- 平成25年度
蒲田駅周辺地区グランドデザインの将来像実現にかかわる必要な蒲田駅を中心とする地区整備について、課題解決のための必要な施設整備と実現化に向けた手順、整備の条件などをまとめた「**蒲田駅周辺再編プロジェクト**」を策定。
- 平成28年度
蒲田駅東口駅前広場及び地下自転車駐車場、事業認可。（初動期整備）
- 平成29年度
・蒲田駅西口駅前広場整備完了。（初動期整備）
・社会情勢の変化等を加味した上で、大田区の将来像をわかりやすく可視化した「おおた都市づくりビジョン」を作成。
- 令和元年度
「大田区都市計画マスタープラン」の改定に向けた検討着手、あわせて「**蒲田駅周辺地区グランドデザイン**」の改定に向けた検討着手。
- 令和2年度～
蒲田駅周辺GDの改定を踏まえた蒲田駅を中心とする地区の都市空間の実現のための施設整備などをまとめた「**蒲田駅周辺地区基盤整備方針**」の検討着手。

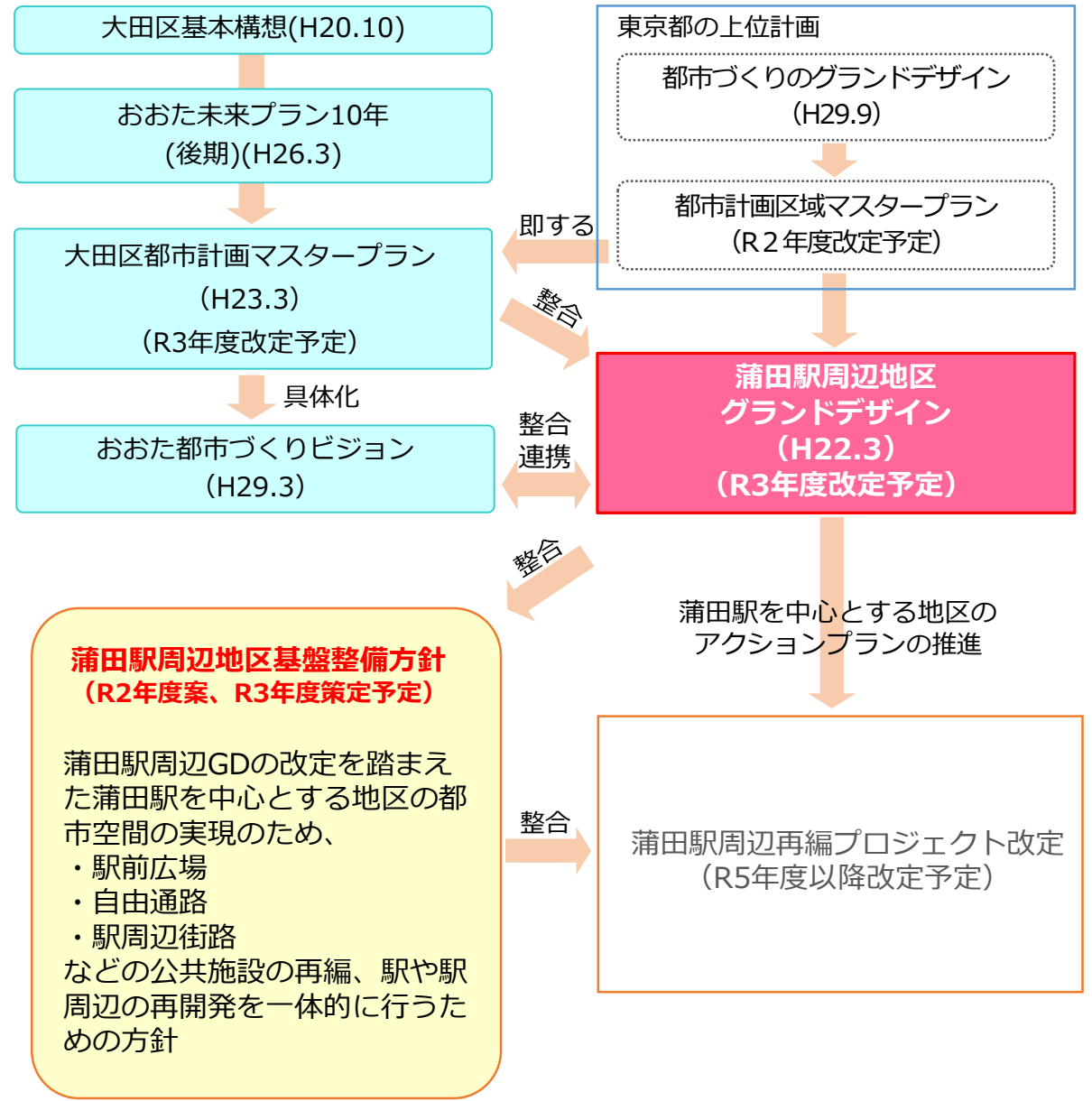


蒲田駅周辺地区グランドデザイン対象区域



蒲田駅周辺地区基盤整備方針の検討対象区域（駅前空間）

(2) 蒲田駅周辺地区基盤整備方針の位置づけ



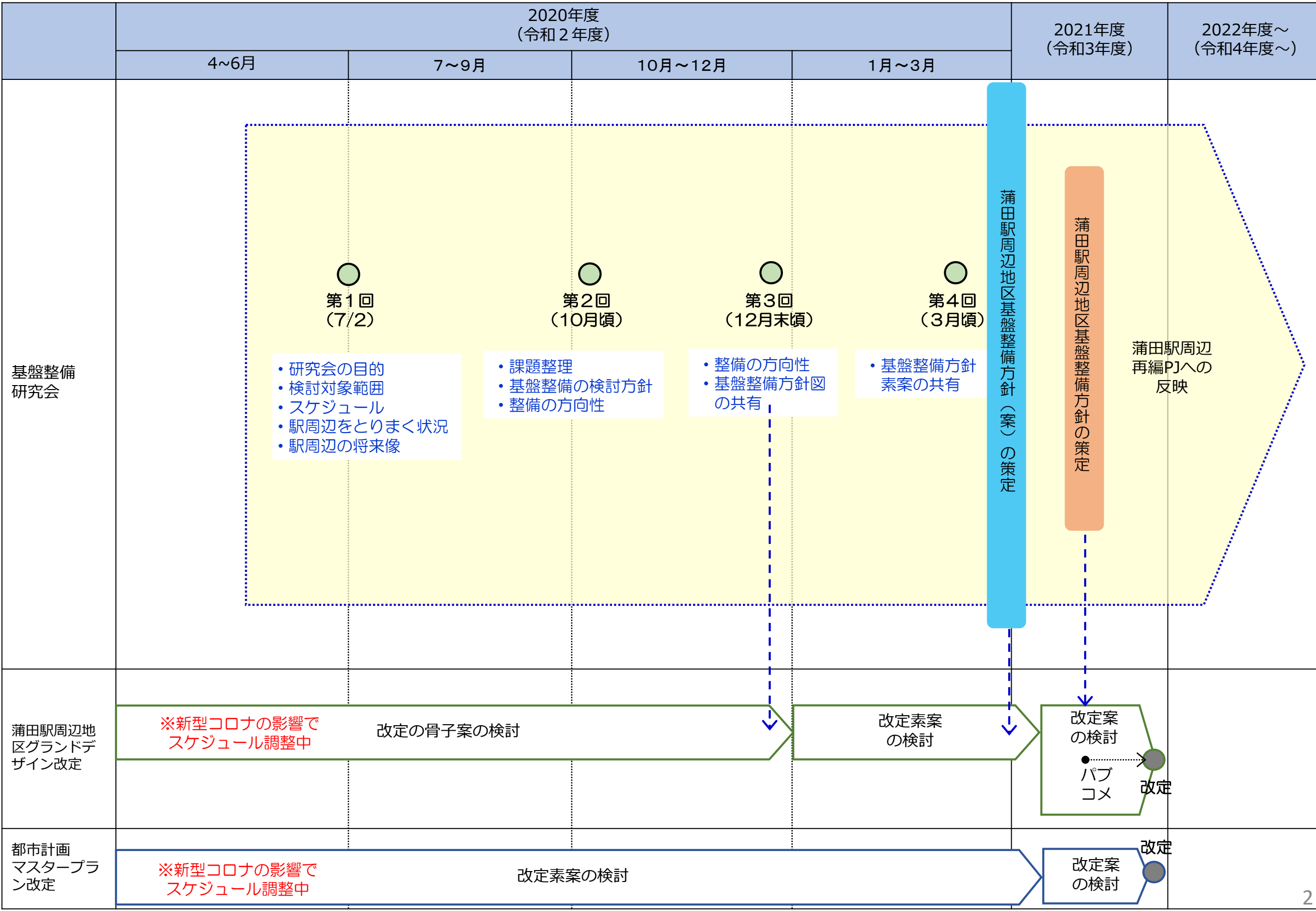
蒲田駅周辺地区基盤整備方針 (R2年度案、R3年度策定予定)

蒲田駅周辺GDの改定を踏まえた蒲田駅を中心とする地区の都市空間の実現のため、

- ・駅前広場
- ・自由通路
- ・駅周辺街路

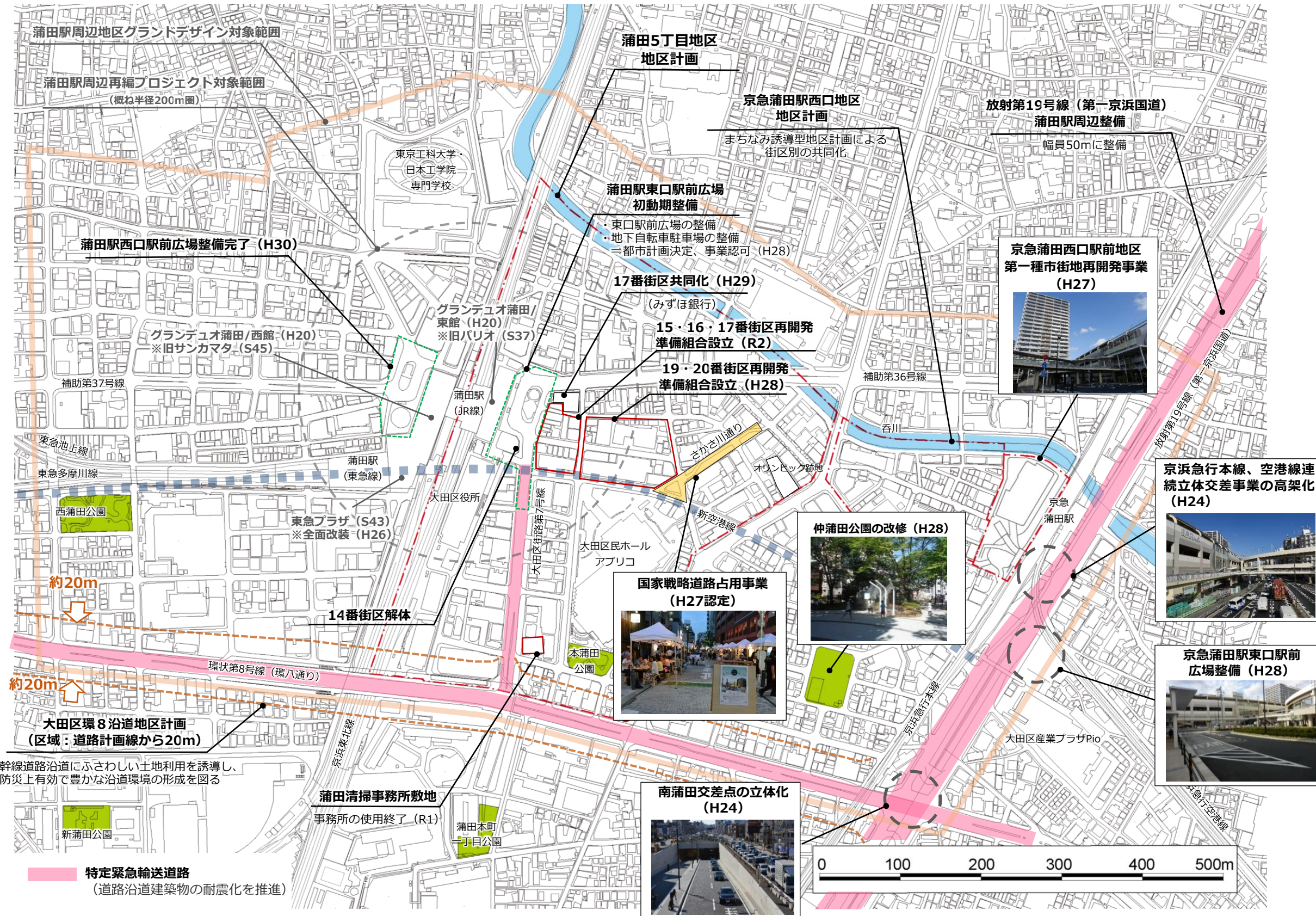
などの公共施設の再編、駅や駅周辺の再開発を一体的に行うための方針

2. 今年度の検討内容とスケジュール



3. 駅周辺をとりまく現況

- JR・東急蒲田駅周辺では、戦災復興土地区画整理事業で整備された街区が広がるとともに、グランデュオ蒲田、東急プラザの駅ビルも築年数が経過しています。
- 一方で、東口、西口の駅前広場では初動期整備が進行中であるとともに、東口周辺では再開発の動きが見られます。



※ 新空港線については、現在想定している線形を記載

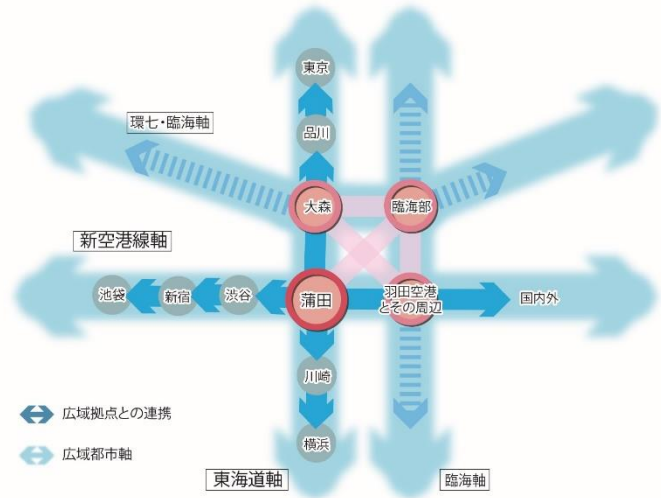
4. 駅周辺の将来像

- 蒲田駅周辺地区グランドデザイン（以下、GD）の改定骨子案では、新空港線や空港跡地の進展により新たな広域都市軸（新空港線軸）が形成され、東京都心や羽田空港との連携が強化されるなか、東海道軸と新空港線軸の結節点に位置する蒲田には『**枢要な地域の拠点**』としての役割が求められています。
- また、拠点としての役割を果たすために、『**交通結節点としての利便性を活かす**』とともに未来のライフスタイルへの対応や先端技術の活用も意識しながら、『**広域的な拠点性を高める機能の強化・充実**』と『**鉄道沿線の日常的な生活を支える機能の強化・充実**』を両輪で進めていくことが求められています。
- 上記を実現するための機能として、『**交通結節機能の強化**』や、『**まちを回遊する歩行者空間の確保**』などが望まれており、『**基盤整備方針にて整備イメージを明らかにしていきます**』。

（1）GD改定で想定している蒲田駅周辺の将来像

求められる役割

『**広域的な拠点性を高める機能の強化・充実**』と『**鉄道沿線の日常的な生活を支える機能の強化・充実**』



東京圏における蒲田の位置づけ

まちの将来像

にぎわいあふれる多文化都市、誰もが安心して気持ちよく過ごせる人にやさしい蒲田

まちの目指す姿

目指す姿 1

文化・交流・にぎわいを生み出す多彩な「活動」が創出されるまち

個性的で魅力ある店舗等による商業活動、ものづくり企業やグローバル企業による経済活動（産業）、地域に暮らす人々による地域活動、観光客の受け入れを目指す活動など多彩な「活動」の融合により生まれた蒲田らしさが、人々を惹きつけ、まちににぎわいがもたらされています。

目指す姿 2

地域の価値を高める「空間」が充実したまち

利便性の高い公共交通と質の高い駅前空間、駅とまちをスムーズにつなぐ歩行者空間、建物やまち全体のゆとりある空間など、充実した都市「空間」が多様な人々を受入れ、回遊や滞留を促すことにより、地域全体の価値が高まっています。

目指す姿 3

安心して快適に過ごせる「環境」が整ったまち

災害に強い環境や、誰もが使いやすい環境、個性的で魅力ある環境、自然を感じられる環境が、あらゆる人々に安心感・快適さ・安らぎを与えています。人々はこれら豊かな「環境」が整った蒲田のまちに愛着や誇りを抱いています。

（2）GD改定を踏まえ蒲田駅周辺で求められる都市・交通機能

キーワード	将来イメージ	付加すべき都市機能	求められる交通機能
広域中心拠点の役割	ものづくりを基軸に、東京城南地域の産業・経済の活性化をけん引	国内外企業のものづくり拠点となるオフィス 交流・新産業、育成機能 スタートアップ支援、シェアオフィス、協働ラボなど 商談の場 ラウンジ、レンタルスペースなど	◆ 多くの人々が利用する駅として、十分な駅前空間を確保 ◆ 駅から各方面のまちへ円滑にアクセスできる動線（道路横断部） ◆ 来街者をまち全体で回遊させる歩行者空間
	上記の役割を支えるアメニティの充実	中長期滞在機能 外国人向け医療サービス グレードの高い飲食店	◆ 蒲田の魅力を楽しめる、面的な歩行者回遊空間 ◆ 次世代モビリティの導入
	空港利用者の交通結節点としての魅力向上	滞在価値を提供する宿泊機能 魅力あるにぎわい機能	◆ 駅の交通結節機能の利便性強化 ◆ バリアフリー化された、蒲田駅～京急蒲田駅への歩行者空間
生活拠点の役割	多文化都市として、誰もが安心して気持ちよく過ごせる環境	公共サービス機能 図書館、行政窓口 など まちに留まり、楽しむ機能・空間 オープンスペース、交流スペース など 外国人向け生活サービス 充実した医療サービス	◆ 交通利便性（公共交通との結節、バス、自動車、自転車）の維持・強化 ◆ 駅から公共交通などへの乗換利便性向上 ◆ 誰もがバリアなく、まちを自由に歩き回れる歩行者回遊空間